



梅島小だより

褒めて伸ばす

副校長 鯉沼 哲

暦の上では、春はもう間近というのに、まだまだ寒い日が続いております。皆様はいかがお過ごしでしょうか。子どもたちは、この寒さにも負けずに休み時間には元気に活動しています。

先日、休み時間に校庭に出てみると、縄跳びを楽しんでいる児童がたくさんいました。梅島小では、1月25日(月)から1月29日(金)まで縄跳び週間でした。校庭やラバークラウンド、体育館に各学年が分かれ、児童一人一人が様々な縄跳びの技に挑戦しています。「副校長先生、見て、見て。」「あや跳びができるようになったよ。」などと、何人かの児童が駆け寄ってきました。すぐに跳び始め、私が「上手だね。」「すごいね。」と褒めると満足そうに笑顔を見せ、何度も跳ぶところを見せてくれました。

縄跳びなどの道具を使う運動は、道具の扱い方、身体の動かし方、タイミングやリズムの取り方などが必要です。毎日同じ動きを繰り返し行うことで運動技能を身に付けて行きます。思うようにいかない時には、途中で諦めてしまう場合も多いです。しかし、できなかった技ができるようになった時の達成感や成就感は子どもたちにとって最高の喜びになり、新たな挑戦への原動力になると思っています。子どもたちが自ら、親や教師に対し「〇〇を見て」「〇〇を聞いて」「〇〇を教えて」という時は、今、自分ができるようになった時やもう少しでできそうな時などの場合が多く、その時に少しでも良いところを褒め、認めてあげることが子どもたちにとっての最高の贈り物になり、次も頑張ろうとするモチベーションにつながっていくと考えています。忙しい時や手が離せない時に限って子どもが「見てほしい」等のサインを出す場合も少なくはありません。そんな時は、「何をみてほしいのか。」「いつ見てあげられるのか。」などをきちんと約束して、それを守ってあげることが子どもたちのやる気につながっていくと考えています。これは、運動する場面だけに当てはまることではなく、学習の場面でも同じように当てはまることだと思っています。子どもたちのやる気を引き出すコツは、子どもたちの頑張りを認め、褒めることです。これからも、ぜひ、様々な場面で本校の子どもたちを見守っていただき、良いところを沢山褒めていただければと思います。よろしくお願いたします。